火のバプテスマ

イザヤ書6:5~8

6:5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」
6:6 すると、私のもとに、セラフィムのひとりが飛んで来たが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。
6:7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」
6:8 私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」

預言者イザヤのきよめ

イザヤは預言者として立ち、神の民に対して「**わざわいだ**!」と繰り返し叫んでいた。しかし彼が神を見たときに、むしろ自分こそわざわいな者であること、「**くちびるの汚れた者**」であることに気づかされた。

くちびる汚れは、その人の**全存在の汚れ**と関連がある。イザヤは神の聖にふれたときに自分の汚れに気づかされた。

神は自分の汚れに気づいたイザヤに対して、祭壇の上にあった**燃えさかる炭**をもって**彼のくちびるに触れた**。その結果、彼の不義は取り去られた。それから**彼の生き方が変わった**のである。

別のことばを使うならば「**きよめられた**」のである。そして、神のメッセージを聞いても悟ることのないかたくなな民に対して語り続けるという、まことに困難な働きに全生涯を費やしたことに見ることができのである。

焼きつくす火

ヘブル12:29 私たちの神は焼き尽くす火です。

キリストの目的

テトス2:14 キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、**私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるため**でした。

精錬の目的

詩篇66:10-12 神よ。まことに、あなたは私たちを調べ、**銀を精錬するように、私たちを練られました。**…あなたは人々に、私たちの頭の上を乗り越えさせられました。私たちは、**火の中を**通り、**水の中を**通りました。しかし、あなたは**豊かな所へ私たちを連れ出されました。**

火を通して精錬された信仰

1ペテロ 1:7 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。

キリストのとりなしによって

ルカ22:31-22 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの**信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。**だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

立ち直ったペテロ

ペテロは自分の本当の弱さを知らずに、大言壮語し、「牢であろうと、死であろうと、覚悟はできている」と言ったが、**主のとりなしにより**立ち直り、**迫害にあって離散している、神の民に対し励ましを与えている。**

火のバプテスマ

マタイ3:11 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに**聖霊と火とのバプテスマ**をお授けになります。

聖霊の象徴

- **風・息**「いのち」
- **油**「神への奉仕の力」
- **鳩**「柔和さ」
- **水**「渇きをいやす生ける水」
- **火**「純化と熱意」
- **ぶどう酒**「喜び」

炎は聖霊の働きをとてもよく描いている。聖霊は、焼き尽くす、燃やす、照らす、さばく、精錬する、きよめる、守りと導きなど、**神の臨在、神の情熱、**そして**神の聖さ**をもたらすのである。

ペンテコステの出来事

使徒2:3 また、**炎のような分かれた舌**が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。

神の臨在を表す火

民数記9:15-16 幕屋を建てた日、雲があかしの天幕である幕屋をおおった。それは、夕方には幕屋の上にあって**火のようなものになり、**朝まであった。いつもこのようであって、昼は雲がそれをおおい、**夜は火のように見えた。**

燃える炉に投げ込まれた三人

ダニエル書の三人の若者—**シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ**ーも火の中をくぐらせられた話は有名である。彼らはバビロンにおいて有能な青年ユダヤ人たちであったが、**ネブカデネザル王の建てた金の像を拝まない**ということで、火の燃える炉の中に投げ込まれようとされた。（ダニエル3章）。

しかし彼らは「**たとえ、神が自分たちを救い出さなくとも偶像の神々に仕えず、金の像を拝むこともしません。**」と断言した。

ネブカデネザル王はこれに怒りを燃やし、炉を普通の七倍に熱くせよと命じ、火の燃える炉に彼らを投げ込むよう命じた。

三人の青年を炉に入れようとした者たちはその火炎で焼け死んだが、三人の青年は焼け死ぬどころか、炉から出て来た時には、頭の毛も焦げることなく、上着も以前と変りなく、火の臭いもしなかった。

彼らは以前にもましてその国で栄える者となったのである。この話は事実だと信じるが、同時にきわめて比喩的である。なぜなら**信仰は火によってためされる**からである。